

ひとすじ つらぬく 星となれ

満開の桜の花びらが朝陽に美しく輝いています。平成29年度も最後となりました。

3学期は、中学2年生の「立志式」をはじめ、中学3年生の「課題研究発表会」、幼児保育コース2年生の「学習成果発表会」、経営情報科3年生の「商品開発成果発表会」等、中学生・高校生、それぞれが一年間の学習のまとめとしての発表が多くありました。

どの発表においても、習得した知識や技能等を駆使し課題を解決する力や根拠を明らかにし論理的に物事を考え推し進める力、自分の考えや思いを文字や音声等を使って豊かに表現する力、友達と協働する力、そして何よりも学びに真剣に向かう力を感じ取ることができ、生徒たちの成長に心が躍りました。

また、高校3年の卒業生は、授業や課外、部活動等に真摯に取り組むことによって資格取得や志望する大学・専門学校等への進学、そして就職と、自分の夢の実現に向けて着実に歩んでいる姿に頼もしさと誇りを感じました。

「人材は群生する」という言葉があります。

これは幕末から明治維新にかけて歴史的活躍をみせた長州藩と薩摩藩での様子を根拠とし、優れた人材は同じところから次々に育つという意味で使われます。

長州藩では、吉田松陰という精神的指導者とそこに集う熱心な若者との素晴らしい師弟関係の中で伊藤博文や高杉晋作などの有為な人材が育ち、薩摩藩では、郷中（ごじゅう）という70軒ほどの小さな集落で行われる郷中独特の教育で、先輩が後輩に対してよき手本となり、「負けるな（泣くな）」「嘘をつくな」「弱い者をいじめるな」等を教える郷中教育によって、西郷隆盛や大久保利通などの有能な人材を何人も出しているからです。

つまり、尊敬と信頼に満ちた師弟関係や先輩・後輩の関係の中で、優れた人材は育つというのです。

宮崎学園中学校・高等学校には、生徒とともに学ぼうとする教師がおり、互いに高め合おうとする生徒たちがいます。

まさに、「人材は宮学に群生する！」です。

今年一年、生徒一人一人は、沢山の教師との出会いによって、かけがえのない友との出会いによって、体験という貴重な出会いによって、学びという真剣な出会いによって、挫折という出会いによって、喜びや悲しみという出会いによって、「ひとすじつらぬく星」への道を一步一步着実に歩もうとする姿があり、充実した一年でした。

生徒たちの力強く誠実な歩みに心から拍手を贈るとともに次年度の更なる飛躍を心から願って、本年度最後の校長室だよりといたします。

これまでの御愛読に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。(完)

平成30年3月31日

吉村久美子